

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台 100 周年記念誌資料ーその 3-32-5(岡山天体物理観測所建設工事写真)**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞 346 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 1ー」、349 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 2ー」、353 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 3ー」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱 3 個に入っていたので 1 箱目をーその 1ー、2 箱目をーその 2ー、3 箱目をーその 3ーとし、その内容のリストを作成し報告した。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかつてにピックアップして書いている。今回は 3 箱目の 32 項目の一部日付が 3 月 15 日～4 月 5 日の 30 枚の写真について報告したい。第 353 号のリストには、

32. 横 A3 なめこ表紙でつづった岡山建設時のアルバム

とあり、写真には脚注がついたものもあり、工事の様子がわかる。岡山天体物理観測所に導入された当時世界 7 位の大きさであった 188 cm 反射望遠鏡はイギリスから輸入された。望遠鏡は神戸港に着き、神戸から瑞星号という 400 トンの鉄鋼船に積み替えられ鴨方近くの玉島港に着き、トラックで建設地の竹林寺山 (標高 370m) へ運び込まれた。しかし、通関手続きは竹林寺山で行われるためまず保税倉庫に格納された。その保税倉庫として建てられたパイプハウスの建設の様子の写真がある。写真 1 の脚注には「保税倉庫土台道」とあり、写真 2 の脚注には「3 月 16 日、保税倉庫敷地」とある。写真 3 は組上げられる保税



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6

倉庫に使われるパイプハウスの骨組みである。写真 4、5 はほぼ組上がったパイプハウス、写真 6 は保税倉庫パイプハウスに内部である。

一方、91 cm 望遠鏡（当時は 36 吋光電赤道義望遠鏡と呼ばれていた）は山陽本線鴨方駅に貨車 2 両で到着し（写真 7）、トラックに積み替えられ（写真 8）、自衛隊によって造成された観測所への道路を運ばれ（写真 9）、竹林寺山に到着（写真 10）、91 cm 望遠鏡ドームに搬入された（写真 10～11）。写真 7 の脚注には「4 月 5 日、日本光学荷物、鴨方着（貨車 2 輛）、写真 8 の脚注には「鴨方駅にて」、写真 9 の脚注には「36 吋運搬風景」とある。写真 10 に脚注には「日本光学第 1 便」とある。写真 11 の脚注には「36”ドームスリットより搬入」、写真 12 の脚注には「36”ドーム内搬入」とある。



写真 7



写真 8



写真 9



写真 10



写真 11



写真 12

写真 13 には 188 cm 望遠鏡ドーム脇にデリックと呼ばれるクレーンがそびえている。写真 14 がアルミの外壁が貼られ輝くドームである。写真の時系列の順番がくるっているのはご勘弁願いたい。この後にまだドーム外壁のアルミ板を張る光景の写真が登場する。写真 15 の脚注には「3 月 15 日現在、下扉が開いたところ（テスト）」とあり、ドームスリットの開閉試験が行われたのが 3 月 15 日であったことがわかる。写真 16 の脚注には「下扉が開いたところ（テスト）」とある。写真 17 の脚注には「窓枠サッシュ外層下塗り」とあり、当時のサッシュが鉄製であったことが知れる。

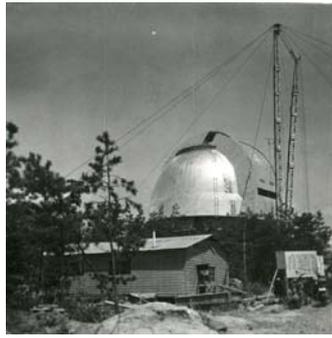


写真 13



写真 14



写真 15

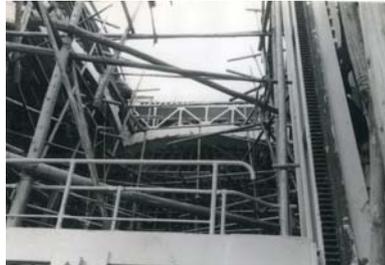


写真 16



写真 17

写真 18 の脚注には「3 月 18 日、ライジング下、石川島リレーボックス取付け中」とあり、写真 19 の脚注には「3 月 18 日、90%アルミ張完了」、写真 20 の脚注には「3 月 18 日、ウオールクレーンを下から穴を通して撮る」とある。



写真 18



写真 19



写真 20

写真 18 から写真 23 は、昔の 2 眼レフカメラによる 6X6 フィルムで撮影されたもので縦横のサイズが同じなので、貼り付け作業、編集がやりやすい。写真 21 の脚注には「3 月 18 日、外壁モルタル塗開始」とあり、写真 22 に脚注には「3 月 18 日、外壁タイル張り開始」、写真 23 の脚注には「3 月 18 日、組立て小屋土台」、写真 24 に脚注には「3 月 18 日、組立て小屋」とある。写真 25 の脚注には「展示館建築用飯場（下の駐車場）」とある。



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24



写真 25



写真 26

写真 26 は、岡山天体物理観測所建設現場を見学に来た人たちであり、脚注には「見物人、石川島ゲートで止める」とある。写真 27 の脚注には「観測台全貌」、写真 28 の脚注には「西床荷重試験、8 トンのインゴットをのせる」とある。写真 29 の脚注には「西床荷重試験（上限 3.8m）」とある。西床はその昇降機構を 188 cm 望遠鏡の主鏡セルの着脱に使うため耐荷重が 8 トンに設定されていた。大まかには主鏡 2 トン、主鏡セル 2 トン、セル台車・レール 2 トン、その他作業道具、作業員の重量があった



写真 27



写真 28

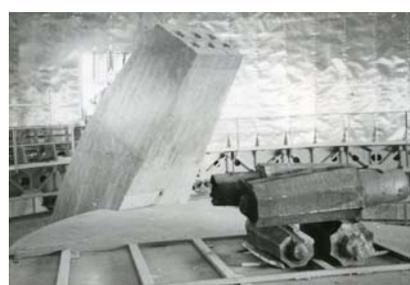


写真 29

写真 30 の脚注には「役場下の端の補強箇所」とある。望遠鏡の大型重量物を通すために国道 2 号線に沿った川の橋を補強する必要があった。当時の国道の様子は今の人には想像できないであろうが、国道 2 号線も舗装はされておらず、トラック 1 台がやっと通れる道幅しかなかった。玉島港から山頂への輸送がいかに大変であったかは、天文月報 1961 年 2

月号の石田五郎氏の「足場のとれる日まで」に書かれている。ハワイに建設された大型光学赤外線望遠鏡「すばる」に携わったものとして、この記事をかいた石田さんはじめ当時の人たちの苦勞がよくわかる。



写真 30

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp